

## 巻頭言

情報科学研究センター所長  
小 淵 洋 一

『城西情報科学研究』は、今回で第 22 巻になります。本研究は、第 11 巻から研究論文についてはレフェリー制度を導入して以来 12 年になりますが、多くの先生にご投稿いただき、深く感謝申し上げます。

さて、今回は、研究論文、研究ノートはなく、報告 3 編をご投稿いただきました。これまで 5 年連続最多投稿編数を続けてきましたが、今回は残念ながら 3 編の報告だけになってしまいました。本研究は、第 19 巻から印刷物にしないでオンライン化し、城西大学の図書館のホームページからいつでもどこからでもみられるようになっていました。レフェリー制度を導入して以来、これまで英文の研究論文が投稿されただけで、それ以外の研究論文のご投稿はありません。是非、今後、研究論文のご投稿をお願いいたします。

今回、『城西情報科学研究』の第 22 巻の刊行が大変遅れましたことを、ご投稿いただいた先生方には深くお詫び申し上げます。今後、このようなことのないよう努めて参りますので、振るってご投稿いただきたいと思います。

今年度の情報科学研究センターの大きな動きとして、1990 年以来担当してきた「センター講座」を、各学部からの強い要望があり、学部に移管したことであります。20 数年前は、情報科学研究センターに教育機能を持たせることには強い抵抗がありましたが、今後の情報教育の重要性を訴え、センターが先導する形で「情報処理基礎」をセンター講座としてスタートさせました。この 10 数年あまりは、センター講座の受講生は毎年度 1000 名を超えており、本学の情報基礎教育の上で大きな役割を果たしてきました。それができたのは、各学部の先生方の深いご理解とご支援・ご協力があったからであり、ここに厚く感謝申し上げます。2012 年度から、情報科学研究センターは直接情報教育を担わなくなりますが、今後も本学の情報教育の充実に向けて支援するとともに、新たな提案もしていきたいと考えております。

2011 年 3 月、ウェブクラスなどの e-Learning に関する開発と研究を促進すべく、「城西 e-Learning 研究会」を設立しました。その第 1 回研究会は、3 月 11 日の東日本大震災の発生で開催できませんでしたが、6 月に「大学教育におけるポートフォリオの役割」をテーマに開催し、その後 3 回実施しました。今後、この研究会の発展を通じて本学における e-Learning の授業展開を一層促進していきたいと考えておりますので、諸先生方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

『城西情報科学研究』は、オンライン化されていますので、図書館のホームページからご利用いただくとともに、次回のご投稿をお待ちしております。